

環境科学科

自然散策会で原山を案内

飛騨高山高生が原山案内 地元中生進学の一助に



オオハンゴンソウについて解説する高校生ら＝高山市新宮町で

高山市の飛騨高山高校の生徒が地元の中学生らを案内する自然散策会（中日新聞社後援）が11日、同市新宮町の原山であった。飛騨高山森林組合が進路選択の一助にしようと、山の日に合わせて毎年企画している。

保護者を含む14人が、20種類ほどの木の枝を重い順に並べるレクリエーションなどをした後、山腹にある池まで歩いた。高校生は道端に生える特定外来生物の

オオハンゴンソウを摘み取り「繁殖力が強く根っこが張るので、斜面の土が流出するのを防ぐために輸入された」と解説。山に生息する動植物も紹介した。

中山中2年の中屋友里さん(13)は「森に入ったからこそ見つけられる、虫や生物が生活した跡があった」と満喫し、雑草の知識を披露する高校生を見て進学後の学びに意欲を見せた。

(平田志苑)